
命と数

マックス・ゼロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

命と数

【著者名】

N Z ハード

マックス・ゼロ

【あらすじ】

命について色々考えてみました。命に限ったことではなく、最大多数の最大幸福ってどうなんだろうなという疑問についても考えてみました。

A 「1人の人間の命と多くの人間の命、さてどちらが重いだらうか？」

B 「命の重さは平等ではないですか？数で考えるものではないと思います」

A 「なるほど、では、1人の人間と100人の人間、それぞれが死にそうな状況で、あなたはどちらかを助けられます、どちらを助けてますか？」

B 「そういう極端な質問はやめてください」

A 「しかしどちらか選ばなければならぬのです、あなたならどうしますか？」

B 「それは、答えられません」

A 「では質問を変えます、あなたにとつて一番大事な1人の人と、全く見ず知らずの100人の人、どちらを助けてますか？」

B 「それは・・・」

A 「あなたの答えは決まっています、あなたは一番大事な1人の人を助けます、そうですね？」

B 「そうかもりません」

A 「もうひとつ質問をしましよう、1人の人間を殺した場合と100人の人間を殺した場合、どちらが罪が重いですか？」

B 「それは、100人を殺した方が悪いです」

A 「おや、今度は即答しましたね？なぜですか？」

B 「それはどう考へても100人殺した方が悪いでしょう、誰でもそう思います」

A 「しかし、命の重さは数で数えるものではないのではないですか？だとすれば一人殺した場合も100人殺した場合も同じはず」

B 「しかし、うんどうも納得できません」

A 「では、こういう2つのケースの場合はどうでしょう、1人の人

間が爆弾を使って100人の人間を殺したケース、もう一つのケースは100人の人間が1人の人間を何日もいたぶつて殺したケース、どちらがより悪いですか？」

B「それは、・・・僕が想像するに、100人で1人を何日もいたぶつた方が残酷に思えるのですが、爆弾で一瞬で死ねた人よりも苦しみは何倍も大きいと思います」

A「そうですね、その感覚は正しいと思います、ですが、数で考えると先のケースは1人の人間が100人の人間を殺し、とのケースは100人の人間が1人の人間を殺した、

つまり『1人』が『100分の1人間』を殺したということになりますね、これって現在の刑法でいつても、罪はかなり軽くなるんですね、不思議ですねえ、イメージ的にはどう考へても後者のほうが残酷なのに」

B「これって責任が分散化されてるから、罪の意識も分散化されてるっていう感じじゃないですか？なんか余計タチが悪いような・・・いじめとかもこれと似たような問題かも」

A「さて、それでは、ラストにもう一つ質問して終わりにします。科学者10人が宇宙船に乗つて宇宙を航行している途中、事故に会い、近くの星に不時着しました。不時着した星で、彼らは地球に助けを求めました、助けが来るまでに1年ほどかかるそうです。しかし、1年も待つている間に、宇宙船の中の空気は枯渇してしまいます。しかし、2人分であればぎりぎり空気がもつことがわかりました。さて、このような状況の時どうしますか？どうすべきだと思いますか？」

B「全員が助かるのが一番いいんじやないですか？僕はみんなでんですよね・・・」

A「そうです」

B「だったら、みんな死ねばいいんじゃないですか？僕はみんなで死ぬべきだと思いますよ」

A 「ほう、なるほど、それはなぜそう思いますか？」

B 「結局、誰が生きるべきか死ぬべきかとか、決める」といふ体ナンセンスだと思つんですよ。誰かだけが生き残ることに意味なんてないですよ」

A 「なるほど、この答えは人それぞれ違つてくるとは思いますが、私はあなたの考え方には賛同しますよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1619z/>

命と数

2011年12月5日20時52分発行